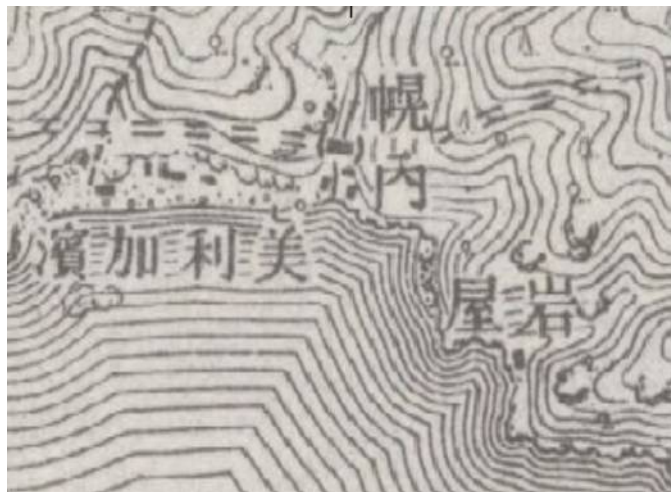


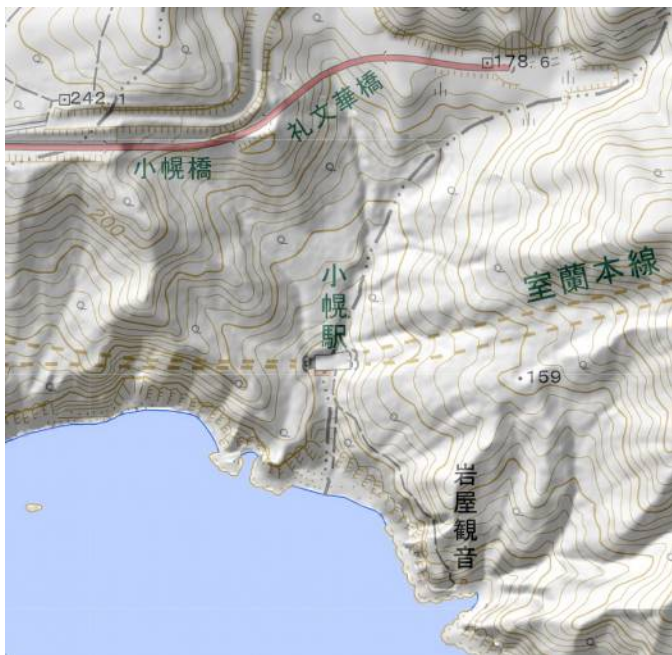
作業の拠点になっていることなどの理由で、現在も「営業中」です。もちろん無人駅ですが・・・



過去の地形図を見ると、小幌駅周辺や海岸には何軒かの民家（或いは浜小屋）があり、駅も一定の利用者があったのかも知れません。



室蘭本線の東室蘭駅でわざわざ普通列車に乗ったのは「小幌（こぼろ）」という駅を見たかったからです。その駅がいよいよ近づいてきました。



(国土地理院地形図)

小幌駅は、「礼文華山トンネル」と「新辺加牛トンネル」という長いトンネルに挟まれた、短い屋外部分にあります。地形図で見ても、駅に通じる車道はなく、周囲に1軒も建物がありません。海岸へ降りる細い歩道がありますが、基本的に住民や観光客が利用できない場所に駅があります。いわゆる「秘境駅」の中でも小幌駅は群を抜いていて、その不便さがかえって人気をあげています。何度か廃止の危機にありましたが、秘境駅としての人気が上がっていること、それに保線

こぼろ 小幌駅(室蘭本線 東室蘭方面)の時刻表

平日	土曜	休日
東室蘭方面	長万部方面	
15	46	室蘭本線 東室蘭行
19	55	室蘭本線 東室蘭行

こぼろ 小幌駅(室蘭本線 長万部方面)の時刻表

平日	土曜	休日
東室蘭方面	長万部方面	
8	35	室蘭本線 長万部行
15	06	室蘭本線 長万部行
17	38	室蘭本線 長万部行
20	21	室蘭本線 長万部行

(ジョルダン時刻表)

現在の小幌駅には一日に6本しか列車が停まりません。長万部方面は朝1本午後3本とそこそこありますが、東室蘭方面は午後の2本だけです。もし 21:21

の最終列車で、この「トンネルに挟まれた真っ暗な駅」で下車しようとしたら、たぶん運転士さんに理由を聞かれて、最終的には下車を止められるでしょう。



列車が礼文華山トンネルを抜けると、いよいよその有名な秘境駅が見えてきました。確かに「何でこんな場所に駅が必要なの??」と、誰もが思ってしまうような立地です。



しかし実に驚いたことに、乗客の半分以上がこの駅で降りたのです。ホームで写真を撮って、また車内に戻ってくるのだらうと思っていたのですが、そのまま列車は発車しました。「一時降車」ではなく「下車」したのです。もちろん全員「秘境駅ファン」でしょう。

私が乗ってきた列車は、小幌着 15:16 で、そのあとに東室蘭行き 15:46 発と、長万部行き 17:38 発があるので、この秘境駅を訪れるには、最も好条件の列車だったにちがいありません。ただし、乗って来る乗客は一人もいませんでした。前の列車が 8:35 なので、この駅で6時間以上待つ人はいないのでしょう。

小幌駅は、次に訪れる時には廃止になっていてもまったく不思議ではない駅です。ホームで嬉しそうに写真を撮っている下車客を横目に、私も「やっぱり降りればよかった!」とちょっと後悔しました。



秘境駅の小幌駅をあとにして、しばらく列車に揺られると、この列車の終点「長万部駅（おしやまんべえき）」に到着しました。室蘭本線はここまでで、長万部から先（函館方面）は、函館本線の列車に乗り換えになります。現在でも長万部駅は、函館本線と室蘭本線の分岐駅で、全特急列車が停まる重要駅です。将来は北海道新幹線の駅もできる予定で、当然地元の期待は非常に高いようです。



なぜか「大人の休日倶楽部歓迎」の横断幕が掲示されています。期間限定の切符の期間だったからでしょう、今回の旅行ではこういう横断幕や看板を何回も見ました。きっと本当に歓迎されていたのでしょう。



室蘭本線の普通列車と函館行きの特急との接続は良く、長万部駅の待合室でボーっとするまでもなく、函館行特急列車の改札が始まりました。